

平成30年度 施策評価シート

基本目標		「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	110	伝統文化を継承、発展させ、新たな文化・芸術を創造する
施策	112	すみだの新しい文化・芸術を育てる
施策の目標	区民がいつでも身近に文化・芸術にふれ、活動できる環境となっているとともに、多くの担い手がすみだで育ち、集い、幅広い分野での新しいすみだの文化・芸術が創造されています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「過去1年間に文化・芸術活動に参加した」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	16.0				25.0					30.0
実績	16.0									
指標名	区内アーティスト・文化芸術団体及び施設の「すみだ文化芸術情報サイト」登録数									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	139				180					200
実績	141									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
これまで取り組んできた文化振興事業を基礎として、新しい文化・芸術を育てるための施策に取り組んでおり、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、すみだから世界に文化を発信する「国際文化観光都市」を目指しています。	H28	538,473
	H29	532,759
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	文化芸術の拠点となる施設の維持管理、新たな文化・芸術を育成するための事業に取り組んでいるが、文化振興財団との役割分担など、さらなる見直しも必要である。

4 今後の施策の運営方針

一次評価	最終評価	施策の戦略的方向性
		(1) 優先的に資源投入を図る。
		(2) 現状維持とする。
		(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
		(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】		
(公財)墨田区文化振興財団の設置目的は、区民活動の向上と文化都市の形成に寄与することとなっており、区と財団との適切な役割分担の下、文化芸術の振興を図るべきであるため。		
【今後の具体的な方針】		
平成30年度に実施する「文化芸術振興のあり方検討調査」に基づき、今後の文化芸術活動支援の方向性を定めていく。		

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	直近の評価内容
						年度目標値	評価結果
						年度実績値	評価対象年度
1	区民や団体等の文化・芸術活動支援事業	15,000	7,105	22,105	区民や団体等による文化芸術プロジェクト「隅田川 森羅万象 墨に夢」の開催経費	30,000人	現状維持
						62,876人	平成29年度
2	文化振興財団運営及び事業補助	62,771	4,441	67,212	すみだの文化芸術の創造と発信を担う財団への助成	2	改善・見直し
						3	平成29年度
3	文化祭事業	5,408	5,329	10,737	区民が文化・芸術活動における日頃の研鑽の成果を発表することができる場を設けることで、区民の生涯学習への意欲を高める。	4,000人・点	改善・見直し
						2,887人・点	平成29年度
4	少年少女合唱団	6,428	1,776	8,204	児童・生徒が豊かな情操を養い、自主性や協調性を身に付け、将来的に音楽都市すみだの文化的まちづくりに寄与する人材へと育てる。地域の学校で練習し、地域のイベントに出演することで、地域への愛着・理解を深める。	90人	現状維持
						86人	平成29年度
5	区民や団体等の文化・芸術活動支援事業	7,422	5,329	12,751	国技館すみだ第九を歌う会及び他団体の活動支援	3,200人	改善・見直し
						3,167人	平成29年度
6	トリフォニーホール管理運営	407,018	888	407,906	区民の文化芸術活動の場の整備・提供	300	改善・見直し
						239	平成29年度
7	リバーサイドホールの管理運営	27,020	3,552	30,572	区民の文化芸術活動の場の整備・提供	80	改善・見直し(効果測定)
						66.19	平成29年度
8	文化芸術活動推進事業	1,692	1,776	3,468	すみだ文化芸術情報サイトによる区内の文化芸術情報の発信	60,000	改善・見直し(効果測定)
						91,613	平成29年度
9							
10							
11							
12							

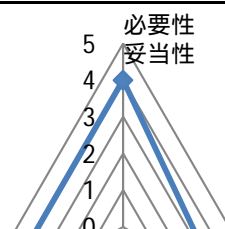
平成30年度 事務事業評価シート

施策	112	すみだの新しい文化・芸術を育てる	部内優先順位					
事務事業	区民や団体等の文化・芸術活動支援事業							
事業概要	従来は、墨田区文化観光協会の文化芸術振興事業の一環として補助金の交付・支援を行っていたが、平成21年4月に同協会が（一社）墨田区観光協会に移行し、観光事業に特化した活動を行うこととなった際に、平成22年度から当該補助金事業を（一社）墨田区観光協会から区が引き継ぐこととなった。以来、区内を活動拠点とする文化芸術団体に対し、補助金の交付・支援を行うことで区民の文化芸術活動の活性化とその促進を図る施策として実施している。平成29年度からは、国技館すみだ第九を歌う会以外の団体に対する支援は公募制に移行して事業を進める。						主管課・係（担当）	
							文化芸術振興課文化行事担当	
							5608-6180	
施策への関連性	当事業の推進は、区民の文化芸術活動の活性化とその促進を図る施策に直接的に関連する。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	墨田の第九は、歌う会会員がボランティア形式で運営に携わり、区内外や海外からの合唱参加者とプロの指揮者・オーケストラが30年以上にわたり高いレベルのコンサートを開催してきた。他にはないこの在り方がこの第九の魅力となり、交流を深め合う場となるなど、区民にも参加者にも相乗的に良い効果を生んでおり、区にとって全国に誇れる文化芸術活動となっている。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	支援団体の自助努力は必要であるが、区内の文化芸術活動の活性化を図るためには、区が経費の一部を負担するだけでなく、人材育成や活動場所の提供など、総合的な支援が必要である。							
有効性・適格性	手段に対する指標（活動指標）	指標	国技館5000人の第九コンサートの合唱参加者数				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		4,800	37	目標	4,700	4,800	4,800	4,800
				実績	4,788	4,949		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	合唱参加者数の増加が、来場者数の増加につながるため。目標値は、国技館会場内における合唱団員の最大着席可能数を設定している。							
	目的に対する指標（成果指標）	指標	国技館5000人の第九コンサートの来場者数				単位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
3,200		37	目標	3,000	3,100	3,100	3,100	
			実績	3,096	3,167			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		3,100	3,100	3,200	3,200	3,200	3,200	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
当日の来場者数がほぼ満席になることが、コンサートの成功を示す成果指標となるため。								
財政面〔決算額〕（単位：千円）	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	7,710	7,422						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕他団体への補助事業予算は公募制に伴い平成29年度から増。国技館すみだ第九を歌う会補助金額は変動無し。				

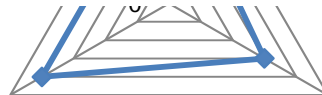
1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
区内の文化芸術活動の活性化を図るためには、区が経費の一部を負担するだけでなく、人材育成や活動場の提供など、総合的な支援が必要であるため。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	有効性 適格性
国技館5000人の第九コンサートは、当区の「音楽都市宣言」を具現化する代表事業であり、他団体への支援についても事業目的は施策に合致している。		4	5	4	4
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
一定の事業効果はあるが、継続的な活動のためには、支援団体のコスト改善に対する自主努力も必要であると考え					
中間・最終年度の講評	第九コンサート事業は、合唱参加者の大幅な減少によって運営収支が厳しい状況が続いたが、直近3年間で新規の参加者を大幅に増やすことで、参加者数が増加傾向に転じているため、今後も現状の範囲での補助を継続していくこととする。				
今後の方向性	第九コンサート事業は、今後も当区の音楽文化活動を推進する代表事業として、継続して開催できるように支援する。 国技館すみだ第九を歌う会以外の団体に対する補助については、平成29年度より公募制に移行するため、その実施経過を踏まえて更なる事業効果の拡大に向けた取り組みを行う。				

施策	策 112	すみだの新しい文化・芸術を育てる	部内優先順位					
事務事業	文化振興財団運営及び事業補助費							
事業概要	(公財)墨田区文化振興財団に対し、事務及び事業に関する経費の一部を補助することで、本区における文化芸術の振興と時代を先取りした新たな芸術文化の創造及び発信を行い、区民活動の向上と文化都市の形成に寄与するという財団の設立目的達成の一助とする。						主管課・係(担当) 文化芸術振興課文化芸術・国際担当 5608-6212	
施策への関連性	すみだの文化芸術の創造と発信を担う要の団体として、引き続き補助していく必要がある。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等) 公益性の高い事業を実施していることから、引き続き区が補助する必要がある。また、今後の文化芸術振興の展開にあたっては、財団が専門性を高め、地域の文化芸術団体に対する中間支援的役割を果たすことが求められるため、引き続き財団の機能強化に向け、支援していく。							
有効性・適格性	手段に対する指標(活動指標)	指標					単位	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
			目標					
			実績					
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標						
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	目的に対する指標(成果指標)	指標	財団事業数				単位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
5		37	目標	2	3	3	4	
			実績	2	3			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
	目標	4	5	5	5	5		
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
現在では音楽関連事業と北斎関連事業を行っているが、設置目的を考えると、より幅広い文化芸術活動に事業展開することが求められるため。								
財政面〔決算額〕(単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	97,619	62,771						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 平成30年度は、区からの移管事業実施に伴う事業費が増となっている。				

1 必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	ない
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり
判断理由	



財団側に人件費を含め、一層の効率化を求める余地はある。



2 有効性・適格性

事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない

効率性 有効性

判断理由
財団の活動がさらに広がるよう、引き続き協議していく必要がある。

必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
4	3	4	4

3 効率性・経済性

目的・対象が類似する事務事業はないか	ない
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある

改善・見直しの上継続

判断理由
より実態に即した交付となるように、努力する必要がある。

中間・最終年度の講評

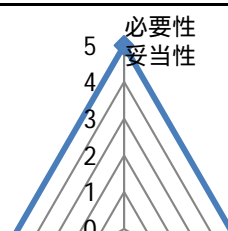
(公財)墨田区文化振興財団が、すみだの文化芸術の要となる団体となるよう、引き続き支援していく。また、地域の文化芸術団体に対する中間支援が行えるよう、専門性を強化していく。

今後の方向性

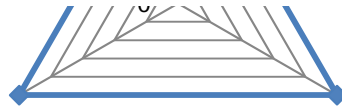
区から移管された事業が着実に実施されるよう、引き続き支援していく。

施 策	112	すみだの新しい文化・芸術を育てる	部内優先順位					
事務事業	区民や団体等の文化・芸術活動支援事業							
事業概要	すみだ北斎美術館の開館を契機として、北斎及び隅田川をテーマとした文化芸術プロジェクトを実施する。						主管課・係（担当）	
							文化芸術振興課文化芸術・国際担当 5608-6115	
施策への 関 連 性	本区を中心に隅田川流域の地域で、街なかや広場など、さまざまな場所で文化芸術等に関する様々なプロジェクトが実施されることで、区民が文化・芸術活動に接する機会を創出し、地域力の向上につなげていく。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	文化・芸術のもつ創造性は、区民に活力を与え、地域の活性化や人と地域とのきずなづくりに結びつくものであり、本区から文化芸術等の活動を通じて、地域振興の担い手が多く育っていきうえでも、区民ニーズがある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	本区から地域振興に関わる多くの担い手が育ち、幅広い分野で新しい「すみだ」の文化芸術等を創造する環境を整えていきうえで、本区が事業を実施する必要がある。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	寄合（ネットワーク形成の場）への参加団体数				単 位	団 体
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		40	32	目標	20	25	30	35
				実績	20	34		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	40					
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内で文化芸術活動等を通じて、地域振興の担い手を増やすべく、ネットワーク形成の場として開催している「寄合」への参加団体数を指標として見ていくことで、区内における文化芸術活動の広がりを把握する。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	事業への参加者数				単 位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
50000		32	目標	25,000	30,000	35,000	40,000	
			実績	28,436	62,876			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
	目標	50,000						
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
区内で実施される文化・芸術活動等に、区民が関わる機会を図る指標となるため。目標値は、H32の東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、本事業を拡大させていくことを見据えて設定した。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	10,000	15,000						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				

1 必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	ない
区が実施すべき強い理由があるか	必須で裁量余地なし
判断理由	



すみだ北斎美術館の開館を契機に開始した、北斎と隅田川をテーマとした文化芸術プロジェクトであることから、本区が実施する必要がある。



2 有効性・適格性

事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある

効率性 有効性

判断理由
事業への参加者数は目標数に達しているところであるが、区内における文化芸術活動は今後拡大していく必要がある。

必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
5	5	5	5

3 効率性・経済性

目的・対象が類似する事務事業はないか	ない
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある

現状維持の上継続

判断理由
地域社会やその他住民への波及効果が高い事業である。

中間・最終年度の講評

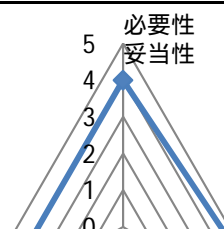
すみだ北斎美術館の開館を契機に開始した文化芸術プロジェクトであるが、事業開始2年度目は17団体がプロジェクト企画を展開し、一定の成果あげることができた。

今後の方向性

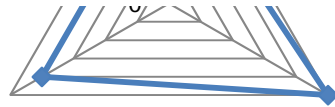
北斎を通じて区民が文化・芸術に関わる機会を創出するとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックまで継続して文化プログラムを展開することで、地域の活性化や産業・文化・観光を巻き込み、ムーブメントを盛り上げていく。

施策	112	すみだの新しい文化・芸術を育てる	部内優先順位					
事務事業	トリフォニーホール管理運営							
事業概要	すみだトリフォニーホール条例第16条の規定に基づき、施設の管理運営業務を指定管理者である（公財）墨田区文化振興財団に委託することで、円滑なホール運営と音楽都市づくりの着実な進展を図る。					主管課・係（担当）		
						文化芸術振興課文化芸術・国際担当 5608-6212		
施策への関連性	文化・芸術振興を図るためには、活動や発表の場の整備・提供が不可欠である。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	活動発表の場を求める区民からのニーズは高い。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	音楽ホールは、収益性の高い事業でないため、安定的なホールの維持管理のためには、区が運営する必要性が高い。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指標	ホール日数利用（稼働）率（大ホールのみ）				単位	%
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		95	37	目標	95	95	95	95
				実績	97	99		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
	目標	95	95	95	95	95	95	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	施設の有効性を図る指標としては、稼働率が最も適切である。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	トリフォニーホール年間入場者数				単位	千人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
300		37	目標	300	300	300	300	
			実績	237	239			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標	300	300	300	300	300	300		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
ホールを利用する人の増減が、文化・芸術振興の一つの指標となるため。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	392,628	407,018						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 施設開設から20年を迎え、計画修繕等の経費が増えている。				

1 必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	ない
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり
判断理由	



安定的・継続的な運営を考えると、引き続き区が運営すべきと考える。



2 有効性・適格性

事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある

効率性

有効性

判断理由

稼働率が100%近くにのぼるなか、近隣のホールの大規模修繕や老朽化に伴い、ホールの需要はさらに高まっている。

必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
4	5	4	4

3 効率性・経済性

目的・対象が類似する事務事業はないか	ない
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある

判断理由

引き続き、効率的な運営に向け、指定管理者との協議が必要である。

改善・見直しの上継続

中間・最終年度の講評

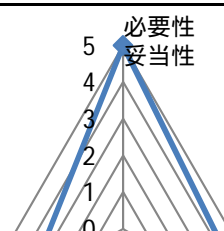
すみだの文化芸術の拠点となる施設であり、引き続き維持管理していく。

今後の方向性

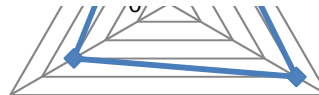
平成32年度からの大規模修繕を、計画的に実施していく。

施策	112	すみだの新しい文化・芸術を育てる	部内優先順位					
事務事業	リバーサイドホール管理運営							
事業概要	墨田区の文化の発展と振興に寄与するため、すみだリバーサイドホールを平成2年11月に開設した。シンポジウム、講演会、式典など幅広く利用されている。						主管課・係(担当)	
							文化芸術振興課文化芸術・国際担当 5608-6212	
施策への関連性	文化・芸術振興を図るためには、活動や発表の場の整備・提供が不可欠である。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	交通機関等への接続が良いことや固定的な座席でないイベントホールは、多種多様な用途に対応ができることから多くの団体や企業が利用しており、必要性が高い。							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	多くの区民が利用する施設として稼働率も上がっている。中小企業センターが廃止となったこともあり、区民が活用するホールを区が運営する必要性は高い。							
有効性・適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	施設使用実績				単位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1,000	H37	目標	1,000	1,000	1,000	1,000
				実績	1,158	654		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	ホールの維持管理を目的とする事業であることから、活動指標としては、施設使用実績件数が最適である。目標値は、数年の実績平均から設定した。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	イベントホール稼働率				単位	%
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
80		H37	目標	80	80			
			実績	73.72	66.19			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
リバーサイドホールの中心施設であるイベントホールの稼働率が、成果を図る指標となると判断した。目標値は、数年の平均から、達成可能な値を設定した。								
財政面 〔決算額〕 (単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	29,898	27,020						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 備品や設備の老朽化に伴い、交換や更新の費用が増える傾向にある。				

1 必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	ない
区が実施すべき強い理由があるか	ある
判断理由	



中小企業センターが廃止となったことから、今後さらに区民を含む利用のニーズは高くなることが想定できる。



2 有効性・適格性	
事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある

効率性 有効性

判断理由
多目的な施設であることや交通の利便性から区民のみならず近隣企業等の利用もあり、有効な施設であること等、利用者からの評価は高い。

必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
5	4	3	3

3 効率性・経済性	
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定

効果測定及び改善・見直しの上継続

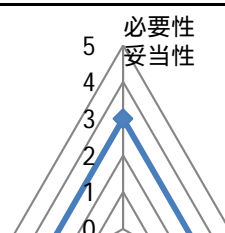
判断理由
施設の性格上、区の利用（無料）が多いため、稼働率が収益にそのまま結びつかない。

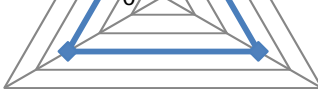
中間・最終年度の講評 区民の文化芸術活動の拠点となる施設であり、設備等を更新し、引き続き維持管理していくことが望ましい。

今後の方向性 庁舎のリニューアル計画に合わせ、ホールを更新し、区民の利便性を高めていく。

施策	112	すみだの新しい文化・芸術を育てる	部内優先順位						
事務事業	文化芸術活動推進経費								
事業概要	墨田区文化芸術振興基本条例の第8条及び第9条に基づき、すみだ文化芸術情報サイトの運用及び本サイト登録者同士の交流を支援し、区の文化芸術活動を促進している。						主管課・係（担当）		
							文化芸術推進課文化芸術・国際担当		
							5608-6212		
施策への関連性	区民による多様な文化芸術活動を広報するとともに、アーティスト同士のつながりをつくることで、施策の実現につなげる。								
必要性・妥当性	区民のニーズ								
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）								
	平成29年度、本サイトの運用を（公財）墨田区文化振興財団に事務移管済み。								
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指標	イベント・インフォメーション掲載数				単位	件	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
		240	37	目標	140	150	160	170	
				実績	141	141			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37	
	目標	190	200	210	220	230	240		
	実績								
	指標の選定理由及び目標値の理由								
	イベント・インフォメーション掲載数は、区内での文化芸術活動活性化の一つの指標となりうる。目標値は、東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化芸術活動のさらなる高まりを想定し、設定した。								
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	アクセス数				単位	件	
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31			
110,000		37	目標	60000	65000	70000	75000		
			実績	63400	91613				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37		
目標	85000	90000	100000	105000	110000	115000			
実績									
指標の選定理由及び目標値の理由									
アクセス数は、本サイトの利用度や認知度を図る指標となるため、設定した。また目標値は、情報掲載数と比例して伸びることが想定されるため、現状の約倍増を想定し、設定した。									
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34		
	618	1,692							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 今年度から（公財）墨田区文化振興財団に事務移管した。					

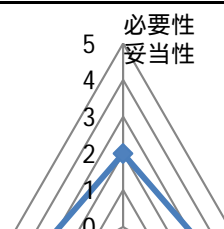
1 必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	増加傾向だが不十分
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり
判断理由	

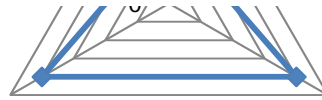


(公財) 墨田区文化振興財団へ事務移管済みであるため。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している	効率性	有効性	3	3
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
アクセス数は増加傾向にあるが、利用者がサイトをきっかけにつながりを作っているか、十分に把握できていない。		3	3	3	3
3 効率性・経済性		効果測定及び改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定				
判断理由					
事業の実施必要性は高いが、(公財) 墨田区文化振興財団の中間支援機能を高めるとともに、サイトをより活用するため、財団事業として実施することとなったため。					
中間・最終年度の講評	平成30年度より、(公財) 墨田区文化振興財団に事務移管。				
今後の方向性	事業廃止済み。				

施策	112	すみだの新しい文化・芸術を育てる	部内優先順位					
事務事業	文化祭事業							
事業概要	昭和29年の文化連盟誕生とともに、花道・写真・書道・俳句の4団体が、区の社会部の後援で、区役所第一庁舎の会議室にて第1回文化祭を開催した。現在は墨田区文化連盟との共催で、参加15団体（展示部門9（茶席を含む）、大会部門8、公演部門1）で構成、開催されている。						主管課・係（担当）	
							文化芸術振興課文化芸術・国際担当	
							5608-6212	
施策への関連性	区民が文化・芸術活動における日頃の研鑽の成果を発表することができる場を設けることで、区民の生涯学習への意欲を高める。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	墨田区文化連盟との共催事業であり、区として関わる必要はあるが、実際の事業運営の外部委託化等、協働の可能性は検討できる。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指標	来場者数				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		8300	37	目標	7300	7300	7500	8000
				実績	7198	7336		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	8200	8200	8200	8300	8300	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	来場者には、参加者と同じ団体で活動する者、友人・家族等が多く、通常の活動についての周囲の興味・理解を示す一指標となる。目標値は、まなびプラン及び直近の実績から設定。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	参加者数及び出展数				単位	人・点
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
4000		37	目標	3000	3000	3300	3500	
			実績	2831	2887			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
	目標	3900	3900	3900	4000	4000		
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
区内で活動し、区内で成果を発表できる人材を表す指標とする。目標値は、まなびプランを踏まえ設定する。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	5,115	5,408						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 展示部門等設営委託費用、実施会場使用料が大部分を占める。				

1 必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	区内では不十分
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり
判断理由	

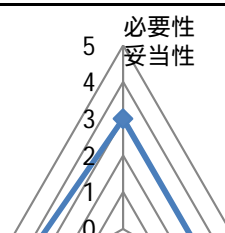




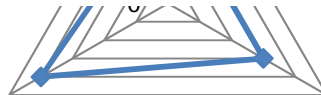
区として実施すべき事業ではあるが、実際の事業運営に関し、外部委託化することは可能である。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている	効率性		有効性	
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
参加者は年々高齢化する傾向にあるが、来場者数は僅かではあるが増加している。		2	4	4	4
3 効率性・経済性		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
サークル等の通常活動会場が主催する発表会等があるが、総合的な文化祭として継続すべき事業である。ただし運営については、外部委託等の検討余地がある。					
中間・最終年度の講評	文化祭は、区民および区内文化団体が日頃の成果を発表する場として定着している。区民が生涯学習を実践する場として重要な事業である。				
今後の方向性	参加団体の構成員の年齢層が高いことから、幅広い世代に拡大していくことが望ましい。第一義的には、各団体の勧誘努力によるところが大きい。区としても文化連盟と協力して、新たな部門を開拓していく。				

施 策	112	すみだの新しい文化・芸術を育てる	部内優先順位					
事務事業	少年少女合唱団							
事業概要	社会教育法第5条に基づき、子どもたちの豊かな情操と自主性、社会性の向上を目指して昭和60年6月に結成。以後、通常練習と定期演奏会のほか、墨田区内を中心に演奏活動を行っている。						主管課・係（担当）	
							文化芸術振興課文化芸術・国際担当 5608-6212	
施策への関連性	児童・生徒が豊かな情操を養い、自主性や協調性を身に付け、将来的に音楽都市すみだの文化的まちづくりに寄与する人材へと育てる。地域の学校で練習し、地域のイベントに出演することで、地域への愛着・理解を深める。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等） 30年を超える活動の中で知名度があり、また、家庭の経済事情に関係なく幅広い年齢の子どもたちを対象にした青少年の健全育成には効果的。民間事業者等への委託により、より柔軟な運営・演奏会出演などが期待できる可能性がある。							
有効性・適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	公演（定期演奏会含む）出演回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		24	37	目標	18	18	18	20
				実績	16	14		
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	20	20	22	22	22	24
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	指標によって合唱団の活動状況が明確になるほか、公演主催者からの依頼による出演が多いことから、合唱団の知名度の向上を示す指標にもなる。目標値は、練習回数(年55回)を踏まえて設定。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	在籍団員数				単 位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
120		37	目標	90	90	95	100	
			実績	89	86			
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
	目標	100	105	110	115	120	120	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
活動による知名度向上の反映として本指標を設定する。なお、今後、追跡調査により指標を「卒団後合唱団等参加者数」と変更し、音楽都市のまちづくりに寄与する人材の育成指標とすることも検討する。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	4,512	6,428						
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 大部分が指導者への謝礼。その他会場使用料、事務補助者賃金等。				

1 必要性・妥当性	
区民ニーズの有無	ある
代替可能性の有無	増加傾向だが不十分
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり
判断理由	



知名度があり、家庭の経済事情に関係なく幅広い年齢の子どもたちを対象にした事業として青少年の健全育成には効果的。



2 有効性・適格性

事業の目的が施策に合致しているか	合致している
指標は目標値を満たしているか	成果指標のみ満たしている
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない

効率性 有効性

判断理由

地域のイベントへの出演依頼も増えており、地域への還元ができています。また、卒団生による合唱団も活動を続けており、音楽のまちづくりに係る人材育成に寄与しているといえる。

必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
3	3	4	4

3 効率性・経済性

目的・対象が類似する事務事業はないか	ない
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある

改善・見直しの上継続

判断理由

外部指導者による管理が行き届いている。臨時職員、指導補助者（卒団生）の業務内容について、精査が必要。

中間・最終年度の講評 音楽都市すみだの理念に基づく音楽文化の振興と子どもたちの異学年交流、集団活動を通じた健全育成の両面を併せ持つ事業として、有効な事業である。

今後の方向性 合唱を通じて子どもたちの情操を養うとともに、集団行動を行うことにより、自主性、社会性の向上を目指す本事業は30年を超える事業であり、団員数の維持・確保に努めつつ、今後も実施する。